

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.22

1994.7.1

三四郎である貴方へ

美濃部重克

大学が清新な驚きと快さをもつて学生の知性を刺激する場であるならば幸いである。モラトリアムの草を食む放牧場で空ゆく浮雲にこころを寄せながら、青年はまだ空白の多い自分自身の地図—あるいは自分という地図—にどのような方位と距離を定めてゆくのか。わたしはいま、漱石の代表的な小説のいくつかを頭に浮かべながら、この文章を綴り始めている。その若い主人公たち、たとえば三四郎が直面する問題はいまの南山生のそれでもあるはずだ。真面目に人生を考える、前途ある有為な青年としての自らを自覚するものにとってはのことだが。

明治の日本を圧倒的な強制力と魅力によって駆り立ててゆく近代なるものに三四郎の若さは体当たりをしてゆく。旧弊な熊本から上京したばかりの三四郎にとって東京は近代という得体の知れない怪物の住む迷宮のようなところである。その近代の正体を知性の面から明かすべく果敢な挑戦を企てる三四郎が赴く場所は図書館であった。彼にはみずから買って出た先導役の、やり手を自負しているけれども大事なところが抜けている、いわば近代の喜劇的側面の申し子である、先輩格の佐々木与次郎がいる。その与次郎が「大学の講義はつまらんなあ」と言い、なにかもの足りないと言う三四郎に「活きている頭を、死んだ講義で封じ込めちゃあ、助からない」だから東京の街に出るとアドヴァイスする。そのあたり教授するものとしての我が身を顧みると忸怩たるものがあるけれど、それはさて置く。

そうして「どうだ。どうだ。」と言って三四郎を東京の様々な場所を引き回して、最後に「有難う、大いに物足りた」と礼を述べられて、与次郎は「これから先は図書館でなくっちゃ物足りな

い」と宣言するのである。もっとも、与次郎は図書館の意義を知ってはいるが、そこで時間を使うタイプではない。三四郎はひとり図書館に入るのである。そう、図書館は仲間どうしの集いのための施設じゃない。蛇足だが念のため。ひとり頭を澄まして、知的な緊張を通して自らを高める場なのである。そして今後、知的情報をより早くより広範囲に収集する施設としても展開してゆくはずである。

三四郎は書物のジャングルを探検する。毎日、本を八九冊借出しては読もうとする。ちなみに、どのように評価するかはともかくとして、数字だけを示せば南山生の一年間の学生ひとりあたりの貸し出し冊数は約12冊らしい。読んで返したのも読めずに返したのもあったが、どの本も誰かが一度は眼を通したものであるらしいことに三四郎は驚かされる。それでために、まさか誰も読んではいまいと思われる書物を手に取って、それを開いてみた。するとそこにも読まれた痕跡が残っていた。近代の知性というのは未知の世界に対してかくも果敢で冒険心に富んだ何かであった。貴方と同じ、決して超人ではない三四郎はいっほうで遣り切れないなど嘆息しつつ、他方で心を奪い立たせるのだ。

いつの時代にも大切なのは、比較によって測られる価値ではなくて、自らにのみ似ることの故に認められるような価値を求める果敢な精神だろう。図書館で、手強い現代の怪物を探し給え。それと戦うことを通して貴方の地図が豊かになるように真摯に努めることだ。

(Shigekatsu MINOBE: 文学部教授・図書館長)

GEMMA-II完成間近...のお知らせ

図書館では1995年4月より新図書館システムを稼働させるため現在テストを行っており、早ければ今年の10月より試験運用を開始する予定になっています。現図書館システムは1985年に稼働し、その後1988年にGEMMAの運用を開始して現在に至っています。そして稼働以来9年を経過し、数々の問題が生じてきています(GEMMAのレスポンスが鈍い、使いにくい...というのもその1つです)。新図書館システムは現在の問題点の解決や、将来に渡って図書館が持たなければならない役割を実現するため、数々の新しい機能が設けられています。その中で今回は皆さんが直接触れる機会の多い新しい検索システム(GEMMA-II)について、現在のGEMMAとどう違うのかを中心に説明します。

昨年の夏、試験期間中の忙しい時に実施した「GEMMA-II試作版デモンストレーション」を憶えていますか...?(結果はデジマスNo.19に掲載されています)GEMMA-IIはこの時皆さんから頂いた貴重な意見を参考にいろいろな機能を追加し完成したものです。

GEMMA-IIとGEMMAの違いをシステム的に見ると、GEMMA-IIは、

- (1) 安定したレスポンスを確保するためにクライアント/サーバ方式を採用し、処理の分散を図っている。
- (2) 将来的に学内LANを利用して図書館以外の場所から自由に使用できる。

といった特徴を持っています。

また機能的に見ると、GEMMA-IIは、

- (1) マウスによる操作が基本となる。
- (2) 多種多様な検索(絞り込み...)が可能である。
- (3) 検索結果(請求番号・状況等)を早く入手できる。
- (4) 結果のダウンロードが可能である。
- (5) 貸出予約が可能である。



といった特徴を持っています。(1)~(5)をもう少し具体的に言うと、

(1)は、これまで画面上の「PF2=LIST」といった表示を確認して、キーボード上でPF2キーを探して押して操作していたのが、画面上のボタンをマウスで指示(クリック)することにより可能となります。例えば、「結果一覧」ボタンをクリックすれば、リスト画面へ行くことができます。

(2)は、これまでは「和図書/洋図書/和雑誌/洋雑誌及びその組合せ」と「前回の結果を使った検索」のみが可能であったのが、新たに資料媒体(マイクロ資料/ビデオ/カセット...)、資料群(参考資料/統計資料...)、言語(英語/ドイツ語...)、所在(図書館/視聴覚ライブラリー...)の検索が可能となります。これらの選択も画面上からマウスで行います。また主題を表す言葉(分類)も同様に選択可能となりますので、例えば「視聴覚ライブラリーの所蔵している英語の歌舞伎のビデオ」といった検索ならキーボードに触ることなく、マウスのみでの検索が可能となります。

検索

ワード

書名

著者名

分類

出版年

区分 [全て] 媒体 [全て] 資料 [全て] 言語 [全て] 所在 [全て]

検索

OFF

<条件入力画面>

キーワードの入力、絞り込み条件の選択を行う。
 書名/著者名/分類/出版年ボタンを押すと、それぞれの入力用ウィンドウが出現する。

<検索結果画面>

検索結果が検索式と共に10世代まで保存される。
 検索結果間のAND/OR検索も可能。

検索

ワード

書名

分類

出版年

区分 [全て] 媒体 [全て] 資料 [全て] 言語 [全て] 所在 [全て]

検索結果

検索条件

010<書名>アソシア 100

検索

保存

検索式

結果一覧

クリア

OFF

結果一覧

書名	著者名	出版年	件
アソシア	アソシア	1999	
アソシア	アソシア	1994	
アソシア	アソシア	1991	
アソシア	アソシア	1991	
アソシア	アソシア	1991	
アソシア	アソシア	1991	
アソシア	アソシア	1991	
アソシア	アソシア	1991	
アソシア	アソシア	1991	
アソシア	アソシア	1991	

所蔵情報

所蔵番号	所在	状態	追加予定日
10500356681	1F 館蔵	貸出中	90/01/02
10500356613	1F 館蔵	貸出中	90/02/22
10500354432	2F 館蔵	貸出中	90/02/22
10500233445	1F 館蔵	貸出中	90/02/06
10500060271	1F 館蔵		
10105356631	2F 館蔵		
10053030555	1F 館蔵		
1070244321	2F 館蔵		
1070040022	R2 館蔵	貸出中	90/03/05
10000034559			
10000034525			
10504436662			

検索

保存

検索式

結果一覧

クリア

OFF

<結果一覧

・所蔵情報画面>

結果一覧と一覧から指定した資料の所蔵情報が表示される。
 指定資料を変更すると、連動して所蔵情報も変更される。

(3)は、これまで「前面」キーを押しながら「終了」キーを押して、「PFI」キーを押すという面倒な操作を行っていた請求票の出力が、検索結果一覧の画面での出力が可能となっています。

(4)は、これまで画面上に表示されている情報のみのハードコピーであったものが、簡易書誌・所蔵/詳細書誌・所蔵情報の選択により編集されて印刷及びフロッピーディスクへのダウンロードが可能となります。例えば自分の検索結果をダウンロードして、自分のパーソナルコンピュータで文献リストとして管理することが可能となります。

(5)は、これまでカウンターで手続きを行っていた貸出予約を画面上から簡単に行えるようにしたもので、予約したい資料がすべて貸出中であることを確認して学生番号を入力するだけで貸出予約の処理が完了します。

以上GEMMA-IIの機能について簡単に説明しましたが、端末数も従来の7台から14台に増やし、新たに1階・地下1階の閲覧室、地下1・2階の書庫に各1台を設置する予定でいます。

また「黙って座ればすぐできる」システムを目指すため、GEMMA-IIは「イタダクスモード」を持っています。これは1通りの検索を画面上で実際にシミュレーションして見せてくれるもので、これを見れば検索の流れやキーワードの入力方法が実感できるようになっています。

さらに新しい機能としては図書館が「イタダクス」があります。これはコンピュータを用いた図書館利用案内で、検索同様マウスで指示することによって図書館に関する数々の情報を入手することが可能です。画面上に表示された加工図から参考カウンターをクリックすると、参考カウンターに関する情報、例えば館外資料の入手法や講習会案内などの情報が表示されます。

以上GEMMA-IIは、皆さんが図書館をより有効に使いこなすための3つの機能(1.検索 2.検索が「イタダクス」 3.図書館が「イタダクス」)を併せ持った情報サービスシステムとなる予定です。使いこなしてさらに有意義な学生生活が送れるよう期待しています。

(システム係：三谷靖司)

図書館向けシステム

CTCと南山大 共同開発 検索・管理一手に

伊藤忠テクノサイエンス(略称CTC、東京・世田谷、宮本和郎社長)は南山大学(名古屋)と共同でワークステーション(WS)とパソコンをベースにした図書館情報システムを開

発した。同大学の図書館で図書館業務などの主要業務を九月までに稼働、九五年度に予算関連業務などを含めて全面稼働させる。同大学の投資額は共同開発したソフトと約八十台のパソコンを含め約一億六千万円。共同開発したソフトはパッケージ化

して外販もする計画だ。新システムはクライアント・サーバー(C/S)型で、UNIX・WSをサーバーとしてマイクロソフトのOS(基本ソフト)「ウィンドウズ3.11」を搭載したパソコンなどをLAN(局内情報通信網)で接続し

た。図書館の閲覧、管理、利用者検索など図書館業務全般をこなす。コンピュータ通信ネットワーク「インターネット」に接続し、海外を含めた学術情報の検索も可能になる。

同図書館はこれまでも検索などにコンピュータを利用してきたが、ホストが教育・研究施設との共用だったため、処理スピードの低下などの問題が生じていた。処理の集中時には画面送りに「三分かかることもあったが、新システムは数秒で済む」という。

開発したソフトは「シリウス」の名でCTCが一般に販売する。価格はクライアント五、六台のシステムで約六百万円。

1994.4.13 日経産業新聞

<外部DB紹介>

OCLC EPIC
(ContentsFirst)
(MLA Bibliography)

OCLC EPIC (以下E P I C) は世界最大級の図書館ネットワークシステムを提供しているOCLC社の外部データベースサービスです。

E P I Cには数多くのデータベースが含まれますが、中でも最も特色あるのが今回紹介するContentsFirstと呼ばれるデータベースです。

ContentsFirstとは一口で言えば新着の雑誌(英語中心)の目次情報(目次のページに書かれている記事のタイトル・著者名のほか、記事の内容の説明文があればそれも)を集めてデータベース化したものです。その特徴は、

- (1) 収録対象雑誌は1万1000誌以上と多く、データは毎週更新されます(収録対象期間は1990年1月以降に雑誌に掲載された分)。したがって図書館で購入中の洋雑誌の最新号の内容を現物が到着する以前に知ることができます。
- (2) 最新号を所蔵している図書館を世界中から探すこともできます。
- (3) 将来的には原文を配布するサービスも予定されているため、情報の速報性を求める場合に適します。

以上紹介したContentsFirst以外にもE P I Cには有用なデータベースがあります。今回はその中からもう1つ取り挙げて紹介します。

MLA Bibliography

本図書館ではCD-ROMと冊子体でも利用可能ですが、それらと比較しての長所は(1)1963年以降のデータを全部検索できること(CD-ROMでは1981年以降)、(2)該当している記事の掲載号を所蔵している海外の図書館を調べられること、(3)データの更新が年10回(CD-ROMは年4回、冊子体は年1回)行われること、などです。

E P I Cの利用方法、料金、申込方法など詳しいことについては図書館1Fレファレンスカウンター(内線262)までお問い合わせください。

(参考係 紅露 剛)

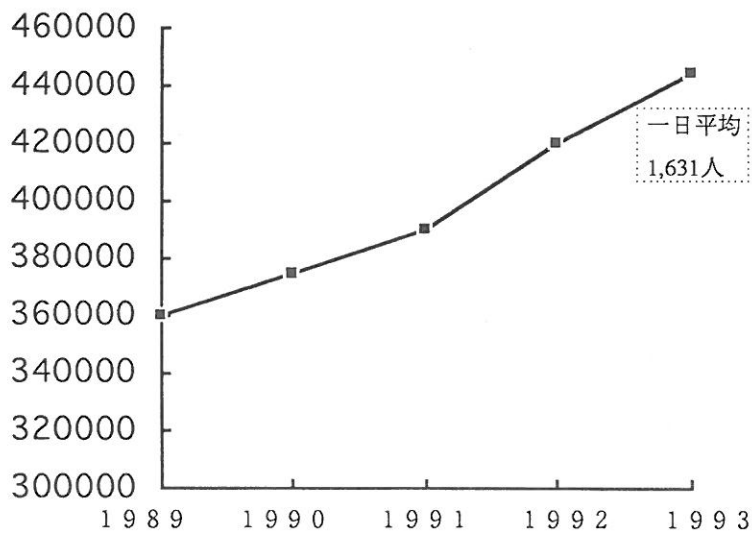


Library Data '93

入館者数

445,347人

<入館者数>

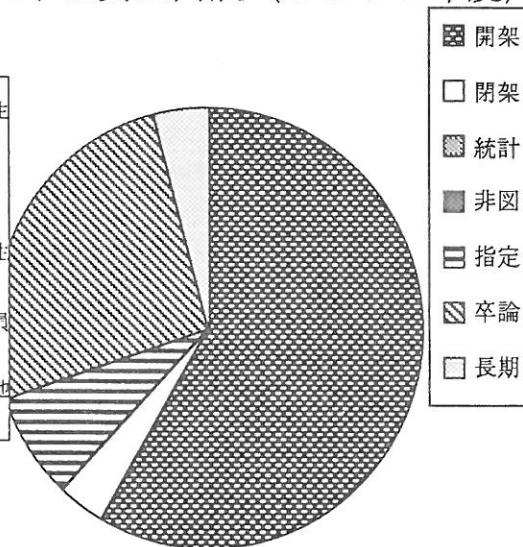
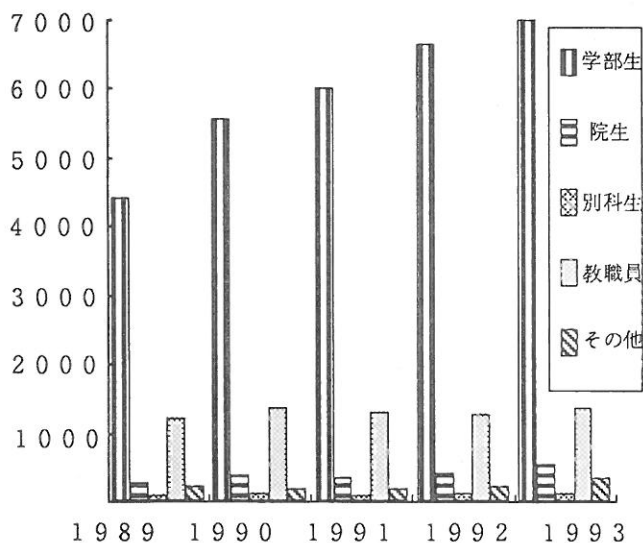


貸出冊数

93,726冊

<貸出統計>

<学生貸出内訳 (1993年度)>



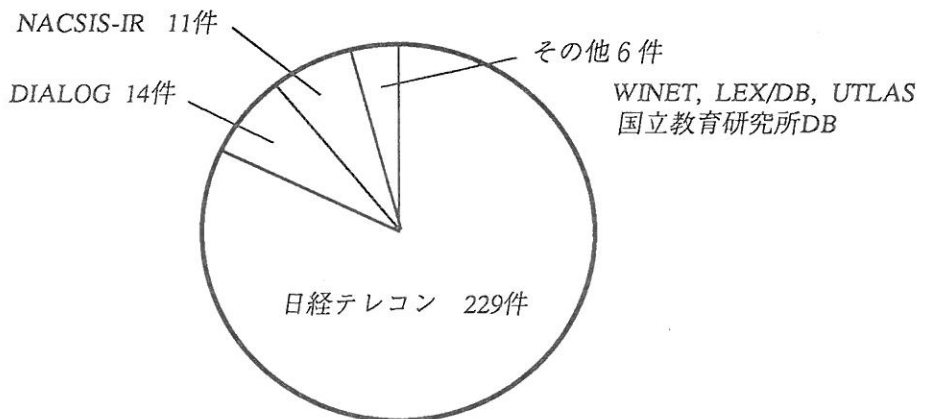
蔵書冊数

596,501冊

内訳	雑誌タイトル数 12,691
和書 260,661冊	和雑誌 7,425
洋書 335,840冊	洋雑誌 5,266

情報検索

260件



(閲覧係)

<文庫訪問>

名古屋国際センター ライブラリー

皆さん、今年の夏の予定はもう決まりましたか?「海外旅行にホームステイ、ああ夢は飛ぶ飛ぶ～」という7ナ、[時間のある学生のうちに、ボランティアに参加したい!]というキミ、行動力にあふれていていいですねえ。さて、そんな皆さんに"お饞別"代わりとして、とっておきの情報をプレゼントすることにしましょう。名古屋の真ん中にそびえ立つビル、"名古屋国際センター"には、皆さんも自由に利用できるライブラリーがあるのを御存じでしたか。

これを知らないのは余りにもったいなさすぎる!という訳で、今回はこの"名古屋国際センターライブラリー"を訪問することにしたいと思います。案内してくださったのは、情報サービス課の伊藤容子さん、額縁和之さんです。

このライブラリーは1984年、1.市民の国際感覚を養う

2.外国人への利便を提供する

3.市民と外国人の交流を図る

という3つの目的をもって、センターの完成と同時にオープンしました。蔵書数は約25,000冊、その内、17,000冊以上を占める外国語文献の多さは、このライブラリーのひとつの特徴ともいえるでしょう。そのため外国人の利用も多いのですが、彼らに特に人気があるのが、小説を中心としたペーパーバックだとか。他の図書館では貸出不可であるこれらの資料がここでは借りられる、というのが魅力らしく、日本滞在を終え母国へ帰る外国人が、自分のもっているペーパーバックを寄贈していく事も多いのだそうです。また、日本人にとってもうれしいのがPM8:30までという開館時間の長さ。これを読んでいう7ナ、授業が終わってからでも立ち寄ることができますよ。

プレゼントその1 遅くまで あいててよかった ライブラリー

ライブラリーは、一部の資料を除いては、本を直接手に取ってみることのできる開架式です。本は大陸・国別に配架されていて、外国語の文献を探すにはとても便利だし、また蔵書の中には世界各国の絵本、教科書もそろっていて、昔読んだメロを違う言語で楽しめそう。それにしても、「ヌーイ!!」と我々をうならせたのは世界の地図の数々。「例えばアメリカの州内にあるひとつの町でも、かなり細かい情報を得ることが出来ますよ。留学や赴任が決まったり、希望している方などは、自分の行く町がどんなところなのか知るために利用されているようですね。」とは、額縁さんの弁。旅行には十分な予習が大切、あなたも是非チェックしては…。

プレゼントその2 地図の山 これ心安心 僕の旅

海外に行く人にとってのメリットはまだあります。旅行ガイドなどで、情報を得るにはもってこいと紹介されている各国政府観光局、「どうせ東京にいかないでメロなんだから～」と落ちこまなくても、ライブラリーにはちゃんとそこで発行されているのと同じパンフレット等がそろっています。少しタイムラグがあるのは否めませんが、他の図書館にはない情報の一つです。また、国内の国際交流活動に参加したいと思っている人にとって、これは役立ちそうだと目をひいたのは、「国際交流関係資料」のコーナー。ここには、名古屋地区だけでなく全国各地の交流団体が発行している機関紙が各団体毎にファイルされ、直接情報を手にいれることが出来ます。機関紙など、会員でなければなかなか手に入らなかったり、小

<文庫訪問>

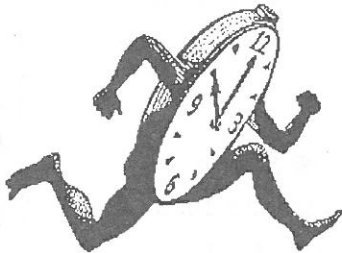
さな団体の活動などつい見落とししがちな状況を考えると、貴重な資料群といえるでしょう。ほとんどの材料として使える人もいるのでは…。

プレゼントその3 草の根をはるのは自分の知識から

そして、図書がおかれている資料室、談話室と共にライブラリーを構成しているのがビデオ・ライブラリー。棚に並んでいるビデオソフトを、9つあるブースで自由に視聴できる他、ゼミやサークル単位で学習を目的とした使用であれば、貸し出しもしてくれるそうです。ソフトは各分野そろっているのですが、何といてもここでの特徴は日本語教材の豊富さ。大学発行のものはないものの、市販のものであればかなりのラインナップといえるでしょう。テキストは資料室の方にすべてそろっていますから、ビデオ・ライブラリーに持ちこみその場で同時に閲覧することが可能です。また、ヨーロッパなど、日本とは違うビデオの方式(PAL, SECAM, NTSC)のソフトでも、ほとんどの操作一つで視聴できるブースもあります。これも他ではまず見当たらない機械ですから、海外にしかない貴重な映像を日本で蘇らせる貴重な設備といえるのではないのでしょうか。

プレゼントその4 ビデオON ボクの地球がまわりだす

センター内にはこのライブラリー以外にもホール、展示室、海外子女相談室があるほか、ライブラリーの向かいに情報サービスコーナーが設置されており、ここでは外国人に対して英語・スペイン語・中国語・ハンガリー語・フランス語・ポルトガル語・フィリピン語の7か国語による日常生活など、日本人には海外渡航に関する情報サービスや相談などを受け付けてくれます。皆さんが有意義な夏休みを過ごす大きな手助けとなってくれるのでは…とちょっぴり期待しながら、今回の訪問の報告を終わりたいと思います。



名古屋国際センター ライブラリー

〒450 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル3F
TEL (052) 581-0102

交通 地下鉄桜通線 [国際センター駅] 下車2番出口 (センター直通)
開館時間 午前9時～午後8時30分 (日曜日・祝日 午前9時～午後5時まで)
休館日 毎週 月曜日
毎年 2月及び8月の第2日曜日
年末年始 12月29日～1月3日

(参考係 土屋玲, 受入係 中村恭子)

<資料紹介>

〔現象学入門〕

竹田青嗣著 東京、日本放送出版会 1989

〔請求番号 135K/2482〕

今から紹介しようと思うのは、現代哲学の重要な思想の一つである“現象学”について書かれた本です。

さて皆さんは現象学という言葉をお聞きでしょうか？哲学をかじったことのある人なら一度は聞いたことがあるでしょうし、図書館や本屋に行って本の背表紙に見かけたり、あるいは文学部唯野教授が講義していたのを知っている人もきっといるでしょう。しかし、その内容を説明しきれぬ人はほとんどいないのではないのでしょうか。現象学は哲学の分野だけではなく、心理学やその他の学問分野にも広く及んでいるにもかかわらず、案外その思想は一般的に知られていません。それでここに、“現象学って聞いたことあるけど、いまいよく分らん”という人にこの本をお薦めします。

近世から現代にかけて多くの哲学者が“主観と客観の一致を如何にして証明するか”という課題に取り組んできました。デカルトは神を持ち出してこれに答え、カントはその問いは人間の理性を超えていてぎりぎりあと一步のところまで答えられないと結論し、ヘーゲルは認識能力は徐々に高度化していくものだからそのうち一致するよといひ、ニーチェは実は客観なんてもともとないんだよというようにさまざまに議論が交わされてきたのです。これらの思索を踏まえて、現象学の創始者であるフッサール（フッセル）は新たな答えを提出したのですが、その内容は本書にお任せしましょう。筆者である竹田氏が、哲学書にあるまじき（？）明解さ、哲学書にあるまじきフランクな例と楽しい挿絵でもって、噛み砕くようにして説明してくれます。彼が如何に大胆に現象学を説明しているか、目次から少し抜粋してみましょう。

知覚は親のいうことを聞かぬわがまま息子

エポケー・・・王様を裸にするための三つの要素

デカルトとフッサールの「方法的懐疑」・・・たまねぎの芽とその働き 等々

これだけでは何のことかさっぱり分からないと思いますが、わがまま息子やたまねぎの芽の謎を知りたい人はどうぞ本書を読んでみて下さい。しかしちょっと頭に留めておいて欲しいのですが、本書は細かい誤謬を恐れずに粗筋をスパッと見せてくれる入門書ですから、この本一冊だけで現象学の全てを完璧に理解できるものではないのです。あくまでこの本は初めの一歩でということ、興味を持たれた人は更なる発見を求めて、この夏涼しい図書館で哲学してみるのがよろしいんじゃないでしょうか。

（整理係 長谷川 久美）

<資料紹介>



[ピラミッドの謎]

吉村作治著 講談社現代新書
請求番号 081K/2432/v.554



いよいよ本格的な夏がやってまいりました。今回私が初めてこの「資料紹介」の欄を割り当てられ、何を紹介しようかと悩みました。悩んだ末、夏という時節柄で連想するものということで、私個人的なものかもしれませんが、唐突に「ピラミッド」を取り上げてみたいと思います。これは誰もが知っているいわば身近な存在ですね。実際に見たことがある人はあまりいないかもしれませんが、私個人としても一度見てみたいと思っている一人です。あの形、あの大きさ、それにまつわる謎めいたものが今日まで人々を魅了し続けて止みません。

ピラミッド、その大きさをご存じでしょうか。手のひらサイズでしたらすぐに想像できることと思いますが、実際が一番大きな「クフ王のピラミッド」の大きさを身近な尺度で紹介してみましょう。底辺の長さは、南山の正門からメインストリートを通って歩いてJ棟まで行ったあたりとなります。そして高さは147メートル。東山タワーより17メートル高い高さとなります。L棟を4つ半積み重ねたくらいでしょうか。その四角錐ですから今度はその体積の巨大さには脱帽です。

古代エジプト社会では、全宇宙に存在するものはすべて、生命を持たぬものはないと考えられていました。そして、抽象的なものにすら生命を与え、人格を認めていた。そして森羅万象、全宇宙のものに、誕生から死滅にいたるひとつの人生を与えたのです。そして永続的な現象は、太陽の運行に限ったもの、それは、太陽神ラーが、一日で一生を過すという考え、すなわち毎朝誕生し、夕方には死んでいくという方程式を与えたのです。だから王をラーと結びつけ、たとえ死を与えられようと、翌日には生まれ変わると考えたここにピラミッドの発想の原点があるのです。ピラミッドは当初、太陽へ昇るはしごとしての役割が与えられた。だからピラミッドのことを、「昇る」という意味の言葉で表現していました。

まさに「太陽へ昇るはしご」という言葉の通り、巨大な四角錐を底辺の真下から見上げた人々は、まるで天空にそのまま昇って行けるかのように見えた筈。しかもそれは、ただ巨大な石の積み上げたものではなく、人間の計り知れない英知の産物であるということが、われわれに感動を与えてくれる。正確な測量と、高度な建築技術。間近で見れば、石の寸法はまちまちで1段目と2段目の石の削り方が曲がってはいても、実はそれが全体の強度を高めていることになっており、すべてが計算しつくされた構造体となって5000年の時を越えて、伝説の産物ではなく今なお現存しているということに感動してしまいます。

文献に面白い計算がなされているので以下抜粋してみました。
ピラミッド建造の工程は、このように行われる。必要な人数、日数を表に示す。
以上の積算の結果は次のようになる。

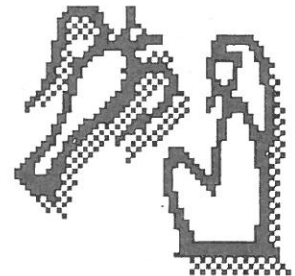
大ピラミッドの大きさ

高さ(m)	底辺(m)	角度	容積(m³)	重量(t)	基礎面積(m²)
146	230	51° 52'	2,574,466	6,693,613.3	160,000

作業に要するのべ人数

基礎作り		3,500人×300日=1,050,000人
築堤作業	土量400,000 m ² (泥レンガ)	
石切り作業	石灰岩2,800,000 m ² 分 花崗岩1,000m ² 分	5人×2日×900個×3,200日(9年) =28,800,000人(7-7300, キゼ 600個)
石の運搬	檣台数7-500, キゼ 500台	10人×500台×2日×2,000日(11年) =20,000,000人
石の積み上げ	144組	14人×432個×365日×18年 =39,735,360人(14人1組)
石の据え付け	1日432個	5人×18組×365日×18年=591,300人
仕上げ		2,400人×300日=72,000人
付帯工事		1,500人×900日(3年)=1,350,000人

途中「ツォラ」、「ギゼ」というのは、石切り場の地名です。



発令からプラン…… 1年
 地鎮祭…………… 3日
 基礎作り…………… 1年
 石切り作業…………… 9年
 運搬作業…………… 11年
 石積み作業…………… 18年
 仕上げ…………… 1年
 付帯工事…………… 3年
 完成式…………… 7日
 全体の日数…………… 25年

南山大学図書館報 (整理係 三浦 基)

1994.7～1994.9

7 月				8 月				9 月					
9:00	4:30	6:30		9:00	4:00			9:00	4:30	6:30			書
		6:00	8:00	長	書						8:00		書
1(金)								1(月)					★
2(土)				★				2(火)					★
3(日)								3(水)					
4(月)				★				4(木)					★
5(火)								5(金)					
6(水)								6(土)					
7(木)				★			7(日)						
8(金)				★			8(月)		閲覧業務のみ				★
9(土)				★	★		9(火)		(8/8-12,				
10(日)							10(水)		8/15-19)				
11(月)				★	★		11(木)						
12(火)				★			12(金)						★
13(水)				★			13(土)						
14(木)				★	★		14(日)						
15(金)				★			15(月)						
16(土)				★	★		16(火)						
17(日)							17(水)						
18(月)				★	★		18(木)						
19(火)				★			19(金)						★
20(水)				★			20(土)						
21(木)				★	★		21(日)						
22(金)				★			22(月)						★
23(土)							23(火)						
24(日)							24(水)						
25(月)				★	★		25(木)						★
26(火)				★			26(金)						★
27(水)				★			27(土)						
28(木)				★	★		28(日)						
29(金)							29(月)						★
30(土)							30(火)						
31(日)							31(水)						

■: 開館時間 ★書: 3・4年次生書庫入庫日 (月・木曜pm 1:00～4:30、土曜am 9:00～11:30)
 ★長: 夏期休暇長期貸出取扱期間

《編集後記》

今月から図書館にも冷房が入ります。うっかり居眠りしてカゼなどひかない様に気を付けて下さいね。

(Y.Y.,M.Y.,M.K.)



(タイトルデザイン: 平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.22
 1994.7.1.発行

南山大学図書館 広報委員会
 編集委員: 山口、米田、黒田

〒466 名古屋市昭和区山里町18

Tel. 052(832)3707

Fax(G3) 052(833)6986